昭和44年12月18日　第３種郵便物認可　昭和48年２月１日発行通巻85号　毎月１回１日発行

成人映画 85

1973＝￥200

特集★全編セックスシーンのポルノ・ロケレポート

百人の前貼りヌード・オンパレード撮影会

新刊・日活ロマンポルノ大全集

日活ロマンポルノがこの一冊でわかる！
50本の作品の名場面の全貌をカラーとグラビアで集録（二四〇ページデラックス版）
この特製保存版は書店では売っていません。ご注文は現代工房へ

日活 衝撃のフイルム
ロマンポルノ大全集1

日活ロマン・ポルノ大全集

ロマン・ポルノ監督名鑑
ロマン・ポルノ・スター女優名鑑

表紙 田中真理

日活

¥500

―内　容―

●「色暦大奥秘話」から「八月はエロスの匂い」までカラー32ページで紹介
●衝撃の名場面50本グラビア
■評論集―人間の根元をとらえる日活ポルノ路線＝村井実
■ポルノ映画はだから必要なのだ＝斉藤正治
■ポルノ映画評＝セックスプレイからみた日活ロマンポルノ＝眼次郎
■女優の股に向って突入せよ・日活ポルノを支える若い才能たち＝斉藤正治
●刑法一七五条に挑むロマンポルノ監督名鑑
●ロマンポルノのスターたち＝女優名鑑
●ロマンポルノ作品リスト

現代工房の編集レイアウトにより、辰巳出版から出版しました。

特製本一冊500円。現代工房で注文次第郵送します。現金書留で注文下さい。送料145円

●新春ヌード・大撮影会スナップ

きょ年ヌードモデルやポルノ女優50余人を一堂に集めて「芸術ヌード写真大撮影会」をやってのけた火石プロ（代表火石利男氏）では、1月14日第2回の「新春芸術ヌード写真大撮影会」を東京・新宿の三福会館ホールで開いた。

集ったモデルは芸能同好会・太陽の女優やヌードモデルら80余名。カメラマンは約200名で、中にはフランキー堺が次回の松竹作品「ポルノ刑事」の参考にのぞきにきたり、東映の中島貞夫監督とスタッフが「エロスの女王」の撮影をしたりと、大変なにぎやかさ。ホールにコの字型にライトを並べて、ヌードモデルが、例の前貼りをベッタリと貼りつけて登場。汗ビッショリの撮られ方、撮り方だった。中でも山樹友代が、人気をひとり占めにしていた。

真理野恵美
水木 良子

山樹友代

ガムテープをソコにベタリと
貼って前貼りのオンパレード

衝撃の映像 18

成人映画
No.85号＝1973

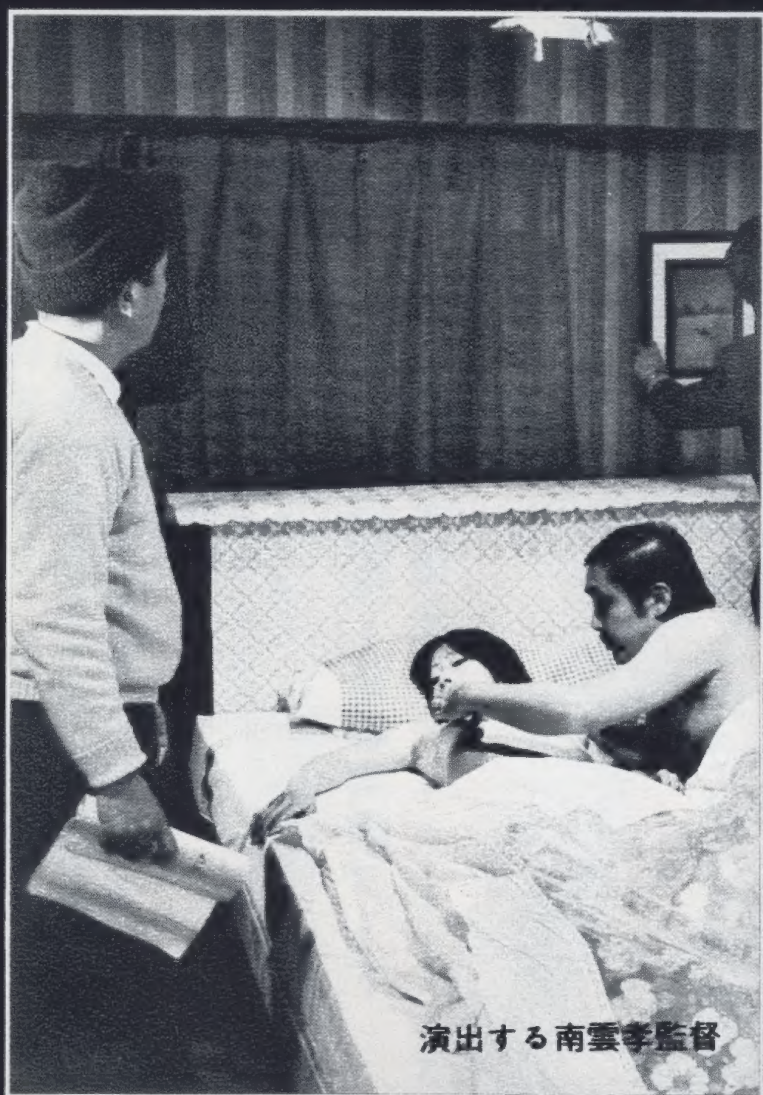
ロケ・レポート

明日なき愛と性

暗い青春を押しのけて生きる〃女のみち〃

評判作をつぎつぎ演出
南雲孝監督快調のペース

このところ「会津恋唄・柔肌無情」や「暴行」など、意欲的な作品をものしている南雲孝監督が、ことしの第一作に手がけたのが、「明日なき青春」（青年芸術映画協会製作・ミリオンフィルム配給）だ。

油の乗り切った演出ぶりがロケ現場にながれていた。

演出する南雲孝監督

森玲子・青山美沙と梅原明徳
のトリオセックス

藤ひろ子と港雄一のベッド・シーン

脚本は監督自身のものだが、こんどの作品は、江東区荒川が舞台、貧しく荒れた家庭の娘、森玲子（新人）が家出の果てに、ホステスとなり、パトロンをみつけて逞しく生きてゆくというストーリー

父親の港雄一は工場の事故でインポになり飲んだくれになってしまった。母親の藤ひろ子は一家を支えるために、体を売っていた。そうした一家の姿にいたたまれずに、ホステスになる前に、恋人にバージンをあげようとするが果せない。やがてホステスとなり、何人かの金持ちの男を相手に寝るが、会社社長（九重京司）の世話でマンションに住む。

母の生き方を憎み、父の不幸に涙しながら札束を持って来る女になってゆく…不幸な青春をも讃歌しようという南雲監督お得意のテーマだ。

新人の森玲子のベッド・シーンがふんだんなら脇役のベテラン藤ひろ子、そしてバーのママ役の青山美沙と三人の女優のベッド・シーンもふんだんにある。

藤ひろ子が城浩、港雄一を相手につぎつぎと入れ替ってのベッドシーンである。

腰巻一枚で豊かなバストをゆらつかせる藤ひろ子にむしゃぶりつく港雄一は、例によって〃本気〃で挑みかかるものだから、藤ひろ子は大弱り。それだけにリアルなフンイキが発散するベッドシーン風景だった。

★

ベッド・シーンの最大の見せ場は、ホステススカウト業で、青山美沙のダンナの神原明彦が、目をつけた森玲子と、青山の二人を相手にセックスするくらいだ。

マンションのベッドで全裸の森玲子を愛撫しているところへ、青山が入ってくる。

青山が「こうしなければ私もこの人もダメなの…永いホステス生活で、男との関係をつづけている間にこうなったのね」といいながら、青山は着物を脱ぎ全裸になって、神原と森との間に入って、燃えてゆく。一対二の〃トリオセックス〃だ。

悶えのけぞる森を相手に神原は、さらに青山のオッパイをもんだり、大忙し。

異様な迫力あるセックスシーンだ。「これが本物の場合ならいいけどねえ」といいながら、汗ビッショリだった。

若松孝二監督作品

ATG作品や「赤軍—PFLP・世界戦争宣言」の記録映画を製作したり、外人ばかり出演させたポルノ映画を作って洋画系で、配給するなど、多方面にわたって活躍している若松孝二監督が、こんどは東映配給の「㊙女子高校生・課外サークル」（若松プロ作品）を撮影した。

この作品は「セックス・ジャック」のその後を描いた作品で、主役の秋山ミチオが、あれから軽井沢の山荘に四人の女高生娼婦をおき、ユートピアを作ろうとする。そこに有名の俳優佐藤慶、作家の田中小実昌、映画評論家の佐藤重臣氏らが彼女たちを買いに来る。

それも実名で登場するものだが、佐藤慶は別として、田中、重臣の両氏はこれまでもポルノ映画でベッド・シーンを演じてきた経験者。軽井沢の山荘での撮影では、田中氏が、アングラ劇団の不連続線・長田恵子を相手にアタマをナデナデされてのベッド・シーンでは役者顔負けの演技派ぶりをみせれば、佐藤重臣氏はフロ場で、四人の女のコに囲まれて全身アワだらけになって体を洗ってもらったり、抱きつかれたりの、まさにウハウハのユートピアの心境。

●田中小実昌氏ら実名で登場

㊙女子高校生・課外サークル

「このごろの女性には優しさがなくなった。男が永遠に求めるのは〃女の優しさ〃だ。この四人の女高生に実名の人物が求めてやってくるわけだが、女性の性のやさしさは、人間回復につながるというのが、テーマです」と若松監督。

ピンク映画では少ない予算にしばられて、苦労しただけに、こんどは多少ゆとりがあってか、ゆったりした空気の撮影風景だった。

SCREEN EROTICISM
衝撃の映像
今月の新作紹介

●復讐を誓う谷ナオミ
裸妻!!性の告白 =六邦映画配給

光子(谷ナオミ)が高校生のとき父のやっている宝石店に強盗が入り父母が殺された。コールガールになった光子は正之(今泉洋)に助けられ結婚する。しかし、夫は女中のミサ(青山美)と出来ているため光子に冷たかった。強盗の伊田(国分二郎)が出所し仲間のサブ(北村淳)町子(森村由加)と宝石を埋めた場所にゆくがそこには光子の家が建っていた。監督=松原次郎

国分二郎と森村由加

谷ナオミと椙山拳一郎

泉ゆりと椙山拳一郎

●情婦恋しさに脱獄

愛欲の暴走

＝葵映画配給

健（武藤周作）は情婦の京子（林美樹）恋しさに脱獄した。逃走中に広子（泉ゆり）を人質として奪う。広子は婚約者の山村（市村譲二）が、健におどされたとき自分だけ助かりたい―と哀願した態度に絶望し、健の京子への純粋な愛に協力する。しかし、健は仲間の修（椙山拳一郎）武（長岡丈二）京子に連絡をとるが、それはかつての仲間ではなかった。監督＝西原儀一

林美樹と長岡丈二

●一目惚れした女が売春婦だったとき

女くらべSEX契約

＝ミリオンフィルム配給

スナックのバーテン勇（滝沢秋弘）は女性にモテモテだ。店のママ（滝りエ）もパトロンの目を盗んではペットとして可愛がっていたし、団地妻の悦子（広江久美）も彼のファンだった。

ある日、彼のファンの百合（山口かおる）が由加（千秋かおる）を連れてきた。勇は一目で由加が好きになり彼女を誘う。だが、彼女が売春婦と知りショックを感じる。監督＝岸本恵一

●縁談のさなかに過去の女が

愛の性典

＝日映配給

行夫（市村譲二）は病院の院長の令嬢光子（山口馨）との縁談もまとまり幸わせだったが、昔、貧しき故に美和（千藤末知）を不幸にした過去があり心の中はいつも冷たい風が吹き荒れていた。ある日、病院の外を歩く美和を目撃し、後を追うが見失なってしまう。それから間もなく記憶喪失になった美和が病院に現われるが、美和は外科部長の愛人だった。監督＝岡本愛

●セックス談義

人妻デート地帯

＝OP映配提供（ワールド映画作品）

未亡人の和子（沖さとみ）は特殊な場所でしかエクスタシーを感じない。由美（速見かおり）はレスビアンで千代（高見由紀）はマゾヒスト。圭子（千秋かおる）は男千人斬りを悲願し、洋子（青山リマ）は大学生に手ほどきし茜（高瀬かおり）はレズと六人の女が二ヵ月間に出合ったセックスの経験を話し合う。お風呂場での話は続くが茜の話に騒動が持ち上がり…。監督＝加奈沢史郎

●短少ノイローゼを直す方法

性愛秘術

＝OP映配提供

（大蔵映画作品）

裕介（国分二郎）は有能で信用があり、その上美沙（林美樹）という恋人まであリラッキーに見えるが本人は短少ノイローゼに悩んでいた。先輩（椙山峯一郎）にはげまされた裕介は女子大生のレズ（あべ聖・千葉末知）やオールドミス（泉ゆり）トルコ娘（青山美沙・月山友美）コールガール（城新子）と女体遍歴を重ねながら短少ノイローゼを克服する。監督＝小川卓寛

●狂気の性態

変態集団

＝日本シネマ配給

「覗き屋・覗かれ屋」「マジック・ミラー」「妻に不能！他人に可能？」「スワッピング」「同性愛」「サディスト・マゾヒスト」「変態・電気責め」そのほかに、汚れた者にのみ性欲を感じる人、幼い者に欲情を感じる人と変態に苦痛と快楽の同居する世界を描いた作品。

監督＝佐々木元

●新妻・真湖道代のもだえ

会津恋唄・柔肌無情

＝ミリオンフィルム配給

会津塗りの老舗に嫁入りした公江（真湖道代）は、母親（三枝陽子）に頭の上らぬ夫義造（港雄一）に心を重くしていた。ある日、公江は妹の信江（すすきの真理）から大学生の佳一（上原良）を紹介されるが、お互いに引かれるものを感じる。ある夜、公江は夫と女中（鈴京子）の情事を見て屈辱とくやしさで、ただ一度だけでいいと女の喜びを佳一に求める。監督＝南雲孝

性の全告白

女学生役から新妻役へ……高見由紀のその"性活"ぶり

高見由紀の略歴

25年8月1日東京生まれ。45年「シロクロ夫婦」（東京興映）でデビュー。清純な感じでセーラー服がよく似合うので、女学生の役が多い。最近はグッと女っぽくなり、新妻の役も多くなり、芝居の出来る女優として貴重がられている。日活ロマンポルノにも出演し幅広い活躍をしている。趣味は読書とゴーゴー。最近作「濡れ濡れ欲情記」（OP映配）。S162、B86、W58、H86。太陽所属。

あげてよかった処女の味

●キミはもう、この世界では'ベテランだ

ヒモ的人間に惚れ裏切られて知った女の性

けど、女優になったキッカケは？

由紀　五社のエキストラのアルバイトをやっていたの。役者が好きだったので、紹介されて45年に「シロクロ夫婦」でデビューしてもう三年になるわ。

●初めてベッド・シーンをやったときどんな気持した？

由紀　ベッド・シーンだからって、別に意識しなかったわ。意外と冷静にやれました。

●ということは私生活で、十分に経験ずみというわけ？

由紀　そうね、初体験が高校を卒業してすぐだから18才のときよ。

●そのときのことくわしく教えてよ。

由紀　高校を卒業して、友達のアパートに同居していたとき、そのアパートに日大の学生がいっぱい下宿してたの。みんなと友達になり、その中の一人の学生を好きになっちゃって、彼になら処女をあげてもいいと思ってあげちゃったの。

●そのときどんな気持した？

由紀　すごく痛かったけど、必死に我慢したわ。あたしってすごく好奇心が強かったし、セックスってどんなものか早く経験したかったので、あげてよかった。

●その彼とはどの位いつき合った？

由紀　二、三回ね。あげるときに人に絶体いわないって約束したのに、私とのこと友達にベラベラしゃべっているって聞いて、それっきり会わなかった。

快楽のセックスを教えてくれた彼

●男って女とやると、ついしゃべりたくなるもんだよ。で、現在恋人いる？

由紀　いまはいないの。昨年の二月まで同棲してた人はいたけど、別れたわ。

●じゃ、その人とのこと聞かせてよ。

由紀　処女をあげた人と別れて、フーテンみたいな毎日を送っているとき、知り合った男性なの。彼はプレイボーイだっ

たわ。決してテクニシャンじゃないけど、苦痛でしかないセックスから快楽のセックスを教えてくれたのは、私が彼を愛していたからだと思うわ。

●セックスライフは週に何回あった？

由紀 週に二、三回ね。すごく満足してたわ。

●セックスの所要時間は？

由紀 計ったことがないわ。だってあのときって夢中になっているもん。

●そりゃそうだね。ところでどうして彼と別れたの？

ヒモ的男との訣別

由紀 同棲している私たちの部屋に女を連れてきたり、二人の生活はすべて私が稼いで、少し貯まるとそのお金を持ち出すのが彼だったの。完全なヒモよね。いくら私がバカでも耐えられなくなったの。このままだと、私がダメになると思って別れたの。その人を愛していたけど……忘れるまで時間がかかったわ。

●キミは惚れると徹底的につくしちゃう

タイプなんだね。

由紀　ホレるとすごく弱くなっちゃう。だからホレないようにしてるの。

●キミの好きなタイプの男性は？

由紀　スチーブ・マックインみたいな男性が好き。躍動している感じがいいわ。

●男のどこにセックスアピール感じる？

由紀　腕に感じるの。強い腕でギュッと抱かれたい――というイメージが、たえずあるからかしら。

女の幸わせは子供を生むこと

●ところでキミの性感帯はどこ？

由紀　耳とウエストからヒップ。それに脇バラも感じるわ。耳に息をふきかけられるとゾクゾク感じちゃうわ。

●生理は何才のときあった？

由紀　中学一年の終りころね。

●毛深い感じがするけど、体毛はいつごろ生えてきた？

由紀　中学二年生ころね。オッパイもそのころふくらみ始めたみたいよ。いまだに大きくならないけどね。

●学生時代にセックスのことで強烈な思い出ある？

由紀　そうね。中学二年生のときに子供の作り方を同級生に教えてもらったときはショックだったわ。

●意外とオク手なんだね。オナニーなんてやった？

由紀　それもやっぱり友達に教えてもらってね。やったことあるけどむなしいものだったので止めたわ。

●結婚したい？

由紀　したいわ。女は結婚して子供を生むのが女の幸わせだと思うようになっちゃったわ。もう年かしら。

●ピンク映画みたまま

山本亭晋也師匠 18番ピンク落語

女湯騒動 (東京興映)

■"一度は行きたい女風呂"全男性の欲求に答えて山本晋也監督が自信を持っておくる映画。とくれば、過去にシリーズの一本でも観た人には"ピンク落語"の世界と想像がつく映画。そう、まったく同じパターンの映画なんです。それでいながら飽きさせないのは、山本監督ゴリッパなもんです。

■登場人物は、長屋のハっあん、熊さん的な質屋の主人津崎公平、薬屋の旦那堺勝郎。松竹新喜劇の渋谷天外とバカ息子の藤山寛美そのままに、松浦康と野上正義。マンガ"天才バカボン"のお巡りさんに太古八郎。テレビ"時間ですよ"の堺正章、川口晶、天地真理の役を、久保新二と松原典子、城新子が演じるっていえば、ストーリーはだいたいわかってくる。

風呂屋の主人松浦はやもめ暮し、息子の野上と二人で商売してるが、桜マミの色仕掛けにまいっている。彼女には北村淳のヒモがおり、人のいい松浦は風呂屋ごとだまされてしまう。バカ息子の野上は食堂の店員城と結婚を誓って貯金をしてたが、親の借金のため使い込んでしまう。理由を知らない城は一時、あきらめるが、傷心の親子が町を去っていくとき「私も連れてって…」となる。

その間に堺・水原早苗夫妻のケンカや津崎の娘松原と久保の駆け落ちなどがからんでのドタバタになる。

■ボインあり、コインありの風呂場シーンは女体観賞を充分満足させてくれるし月山友美の百以上のバストをふんだんに見せられると、客席から思わずタメ息が出てくる。女湯といえば、当然陰毛を期待するが、その期待を満足させてくれるシーンが二カット見れる。

映倫の目の届かない部分でサービスした反骨精神。これから恥毛解禁の旗手として期待したい。桜マミにコーラビンで満足させたりする妙なエロチックはあるが、浴場シーンに頼りすぎ、言葉の遊びが過ぎたきらいもある。濡れ場も裸にもならない城新子を、天地真理と一緒にしないで欲しい。

北川康春

●ピンク映画みたままストリッパーの性と人間模様描く

濡れ濡れ欲情記（OP映配）

■一条さゆりの「濡れた欲情」が、ヒットして話題となったけど、ピンク映画はまず、タイトルでもオマケつきというわけか〝濡れ濡れ〟ともう一つつけての、ストリッパー四人の欲情ばなしである。ドサ回りのストリッパー北見マヤは、会社の部長（市村譲二）をたぶらかして金を巻きあげようと、誘いにのって、ホテルで寝る。プロポーズされて、結婚資金に五十万円の小切手をもらったものだから、すっかり信用して、市村にヘソクリの10万円を用立てたりする。だが、小切手は不渡りで、マンマと詐欺にかかった。定評ある北美のセックス・シーンはそれほどの迫力はなし。監督＝沢賢介。
■座長格のアミ・アッコ（アングラ女優）は田舎に残したわが子を大学に入れるため、その土地でスポンサーを見つけてはホテル住い。金持ちのジイさん冬木喬三に一週間二十万円の恋愛契約で、たっぷりサービスする。高見由紀はアル中で、アルコールが入らないと、舞台に出られないし、寝られない。支配人の北村淳に酒を断てといわれ、そのかわり、北村のセックスで満足させてもらい、正常人間になる。この辺はピンクメロドラマ仕立てだが、一番の見どころは、桜マミだ。
■ライトマンの堺勝朗とよろしく出来ていて、堺は夜は楽屋で他のストリッパーたちとザコ寝している桜のフトンにもぐりこんで来ては、忍びのセックスをする。よくなって声をあげそうになる桜の口にタオルを押し込んだりするシーンは笑わせる。同僚の高見、北美らに「たいがい遠慮したらどうなの、睡眠不足だよッ」と怒鳴られたりする。
■思いきりやろうよと、ホテルでハッスルするが、堺にバックから責められる桜のセックス演技は、一応の迫力もあるし、芝居がうまくなった。
　昔のイロが出所してくるときいて、桜はアミの二十万円を持ち逃げするなどストリッパーの人生模様が描かれる。
■とても一条にはおよばないしベッド・シーンも通俗的で舞台シーンも全般に弱い。桜マミの成長が印象に残る　眼　次郎

桜マミのセックス演技は迫力がある

"男の血"謳うユニークさ

国分　二郎

★ピンク映画の並いる男優陣の中で、もっとも現代的な青年像を発散させる人だ。いわば二枚目の風貌だが、それが甘さではなく"血"が騒ぐといったユニークさを表現できる貴重な存在だ。だから二枚目本来のメロドラマチックな人物像よりも、ユニーク（独得、特異）な作品にピタリ適合する役者といえるわけだ。

★40年に「性と血」でデビューしているから七年のキャリア。ピンク映画が隆盛期に入るよき時代に育った。

「極悪弁天」「尺八弁天」など渡辺護監督で、その真価を発揮し、渡辺作品には欠かせないメンバー。いまでもそうだが、きょ年若松孝二監督の「現代日本暴行暗黒史」に出演し悪の権力に挑戦するバイタリティあふれる役どころを演じて注目された。

★こうした情熱的で血のたぎる役をやらせると、スクリーンがよみがえる。

本名が森達也。芸名より本名の方がよさそうだ。18年静岡生まれの29才。年令的にもいまがもっとも活躍できる年代だ。「人間が生きる美しさと、悪の華をスクリーンに表現できるところに、役者の生甲斐がある」という。ことしはこの両面の役どころを一段と高揚してほしい。最近作は「ただれた性炎」（OP映配）。　眼

大蔵貢社長が総監督

●「人類の性典」に一億円かける情熱

大蔵映画の大蔵貢社長(七三)が、大ポルノ映画「人類の性典」を製作する。

同社長の映画生活六〇年を記念しての作品で、原作、脚本、総監督、プロデューサーと四役。製作費は一億円のオールカラーで二時間の長編。

アダムとイブの創始時代から現代の自由恋愛と性を、オムニバスで描くものだが、狙いはセックスに満足していない女性に秘訣を伝授しようという内容になる。今春ロードショー公開の予定。

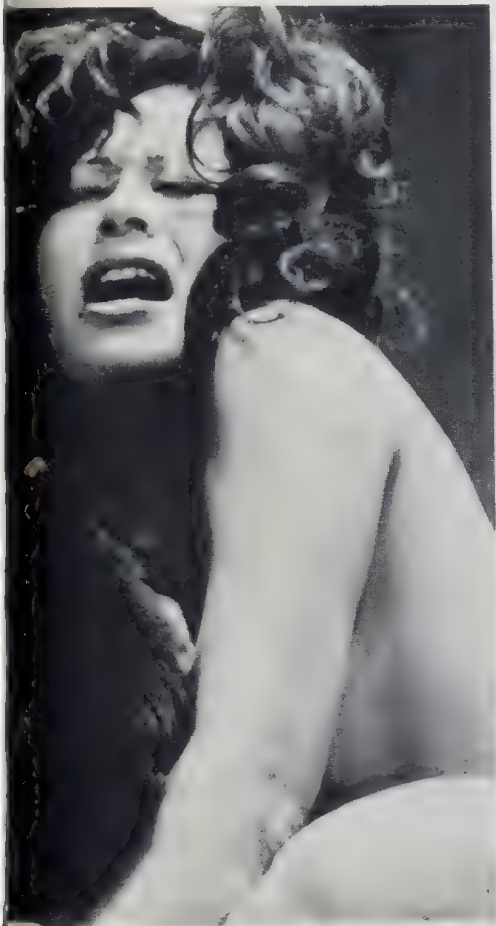
白川和子の引退記念

●藤田作品に前貼りなしで挑戦

今春三月に結婚のため引退した日活ロマン・ポルノの白川和子は一月で契約が切れて映画界から去ったが、その最後の作品が、藤田敏八監督の「赤い鳥逃げた?」(グループ・法亡作品)。東宝配給で、日活にいながら、藤田と白川は一本も撮っておらず、これが初顔合わせで最後。

「あのエクスタシーの迫力演技は右に出る人がいない。一度使ってみたかった」という藤田監督は、白川が人妻役で若い男の大門正明と浮気する現場を夫におさえられるわずか数シーンに一段と熱の入った演出ぶりをみせた。

白川はいつもの前貼りをつけず、全裸で挑戦、激しい演技でカットが終わるごとに白川はグッタリ。「こんどのお仕事は楽しかった。こわい監督だときいていたし心配だったけど、いいムードをもっていらして、いい思い出になります」と感慨ひとしおだった。

ミニ・ミニ・ニュース

●谷身知子が結婚

ピンク女優姉妹として知られている、珠瑠美の妹谷身知子(二三)が、結婚のため、女優をやめることになった。

結婚相手は明らかにされていないが、43年「色情診断」でデビュー以来、四年余の女優業にサヨナラする。

●青山美沙が劇団作る

青山美沙が「劇団BOBO」を離れて、「劇団美沙」を設立27日旗上げした。

メンバーは名和三平、有沢真佐美。

バックナンバーのお知らせ

成人映画に関しての貴重な資料でもある本誌「成人映画」の在庫が少なくなりました。現在品切れは5号、12号、14号、23号、24号、25号、26号、29号、30号、31号、33号の11冊です。各号とも74号まで一部百円です。ご注文は現金書留か切手でお願いします。

「濡れた欲情」

「しなやかな獣たち」

話題作のアンコール上映

日活ポルノ情報

日活ロマンポルノの2月番組は、さきに警視庁から警告され三日間公開中止となった「色情姉妹」(監督曽根中生)が再編集されて、出直し上映([illegible])されるし、好評に応えてのアンコール作品「濡れた欲情」「しなやかな獣たち」「夕子の白い胸」(2/14)が再映される。

新作は「傷だらけの欲情」「熟れすぎた乳房・人妻」([illegible])、そして引退する白川和子の「実録白川和子の裸の履歴書」(監督曽根中生)は彼女が日活で花を咲かせるまでの告白的女優論をドキュメンタリー風に描くという。

併映は「妻三人肌くらべ」(監督林功、原英美、二条朱実)

「色情姉妹」

「夕子の白い胸」

OP・恵通系2月の映画ガイド

期間		
2/2～2/8	性愛秘術（OP映配）	暴行（ミリオンフィルム）
2/9～2/15	人妻デート地帯（OP映配）	花開く17才（東京興映）
2/16～2/22	痴態の乱れ（OP映配）	制服の牙（東京興映）
2/23～3/1	ポルノ婦人科（ミリオンフィルム）	真夜中の悶え（OP映配）

●編集後記

昨年は日活ポルノで明け、ポルノで暮れた形で、ピンク映画界は日活に追いまくられ苦しい年であったが、この正月のピンク映画界の出足は好調のようである。

恵通・OP系の封切りが、オール・カラーで一時間二十分の二本立て興行を打ち、それが一応成功したといえるようだ。

お客さんの方だって、つまらないものを三本見るより、いいものを二本見た方が喜ぶ。しかし、今後、一時間二十分になるといろいろ問題が出てくる。従来通りのベッド・シーンばかり多い映画では通用しなくなるし、シナリオにしても、いくらいいシナリオを書いても監督の力不足も出てくるだろうし、その逆もある。その前に、企画も問題にされるだろうし、製作者、スタッフ、俳優の問題も出てくる。

二本立て興行が一応成功となれば、ことしこそはフンドシをしめなおして、昨年の二の舞にならぬようにしたいものだ。

この正月に〃珠瑠美と劇団鷹〃の舞台を見に行った。話はドタバタとハダカでお正月らしくおもしろく作ってあって、まあまあだった。出演者は座長の珠瑠美だが、男優になんと監督二人が出演していた。秋山駿こと津崎公平と和泉聖治だ。監督も大変なんだなー役者と監督の一人二役をやらなくてはならないとは…。そういえば、この舞台を見てゲラゲラ笑っているお客さんの反応をみると、やっぱり津崎公平のオモシロさでうけているみたいだ。

役者上りの監督といわれるが、どうして役者の津崎公平の方がよっぽどうまくて、さすがベテランである。

昨年の暮の忙しい中を彼、秋山駿監督の演出した映画に出て、映画初出演ーとばかりうれしがっていた私だが、我々が出演した座談会のシーンが全部カットされてしまったーという何ともサマにならないモノを作ってしまったという。ギャラのことは云うまいが、秋山駿監督、いや津崎公平さん、映画作るより役者に戻った方がいいのではないかーと、彼の舞台と同時上映の「女湯騒動」に役者として出演しているのを見て、つくづく思った次第です。

川島のぶ子

成人映画■昭和48年2月1日発行・通巻85号・毎月1回発行■編集兼発行人・川島のぶ子■発行所・有限会社・現代工房〃東京都港区六本木三の四の三四・601号・〒一〇六■電話・東京03（583）1513■定価二〇〇円

写真集

'73ピンク女優ベットシーン特写ヌードアルバム

愛蔵限定版

特価4000円
（送料共）

■新しいピンク女優のポルノ・ベッド・シーンの迫力場面をはじめ、特写ヌードを集めた新しい企画とユニークな特製版。
すべて印画紙に焼いた作品集。

■現金書留でお申込み下さい。

■現代工房・写真部

東京都港区六本木3－4－34
伊勢吉ビル　601号室・〒106

「成人映画」 昭和四十四年十二月十八日第三種郵便物認可 昭和四十八年二月一日発行毎月一回一日発行 通巻八十五号昭和48年2月1日発行 編集発行人 川島のぶ子 発行所 東京都港区六本木三—四—三四 六〇一号室 電話(五八三)一五一三 現代工房 定価二〇〇円